

西京極

## 令和7年度 前期 振り返りアンケート 結果のお知らせ

令和7年11月  
京都市立西京極小学校  
校長 齋藤 直子



西京極小学校HP

### 学校教育目標 いきいき学び、心豊かに生活し、未来を切り拓く 子どもの育成

- ・事実と知識を大切にし、探究する子ども
- ・自ら調べ、考え、学ぶ子ども
- ・人とのつながりを大切にする子ども
- ・豊かで楽しい生活を追い求める子ども

晩秋の折、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育推進のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

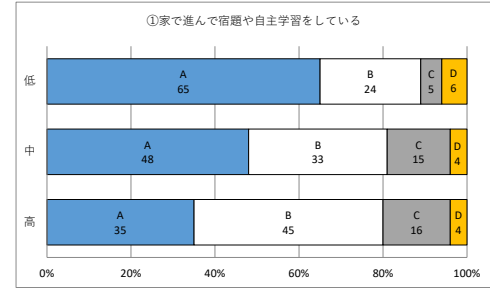
さて、今年度7月に実施しました前期振り返りアンケートの集計結果について、お知らせいたします。

◇ 低…低学年(1・2年生) 中…中学年(3・4年生) 高…高学年(5・6年生)

## 1 確かな学力

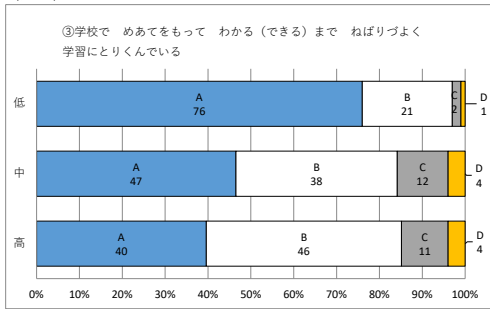
### 【家庭での自主学習】

〈児童〉



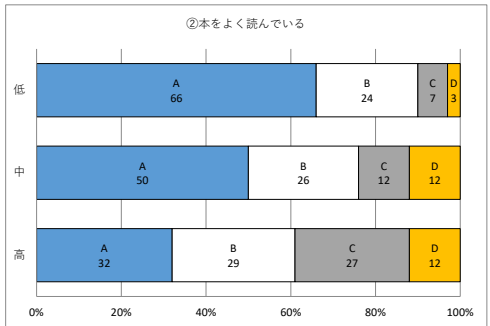
### 【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】

〈児童〉



### 【読書の習慣】

〈児童〉



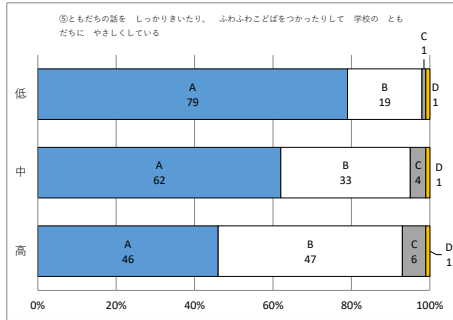
【家庭での自主学習】と【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】について、ともに低学年は肯定的な回答の割合が高く、学年が上がるにつれてその割合が減少する傾向が見られました。これは、学習内容が難しくなることや生活の多様化による影響が考えられます。児童が「できた、わかる」と感じられるようになることを目指して、どの教科どの単元でも、今以上に計画的に教材研究や授業準備などをすすめ、児童の関心・意欲やクラス・学年の実態に沿いながら、意図的に子どもも主体となるような授業展開を考えていきます。また、家庭学習に取り組むことができていない児童の背景を捉え、家庭学習をすることのメリットを発達段階に応じて、児童やご家庭にも伝えていくことで、学習習慣の確立に努めていきたいと思ひます。

【読書の習慣】については、低学年ほど「本をよく読んでいる」と感じている児童が多く、学年が上がるにつれてその割合が減少する傾向が見られました。これは、読書への関心の変化が影響していると考えられます。また絵本から読み物への移行がスムーズにいかず、年齢や実態に合った本に出合えないことが大きいと感じています。学校ではこの結果を受け、学級文庫を見直し、児童が読みたいと思う本を置くなどの工夫をしています。さらに図書委員会を中心に読書週間の取組を充実させ、その取組が児童の読書活動に直結するようにしていきたいと考えています。今年度も、図書ボランティアなごみさんによる読み聞かせが朝読書の時間を実施されており、児童にとっても楽しい時間となっています。今後も引き続き学校司書や図書ボランティアの皆様とも協力して、日常の読書の習慣化につなげていきたいと考えています。

## 2 豊かな心

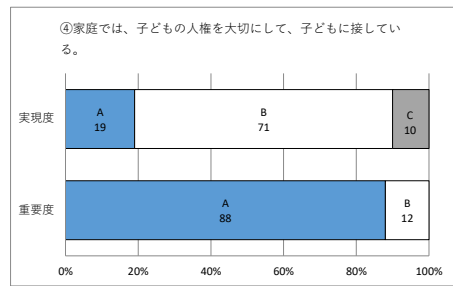
### 【思いやりのあるやさしい心】

〈児童〉



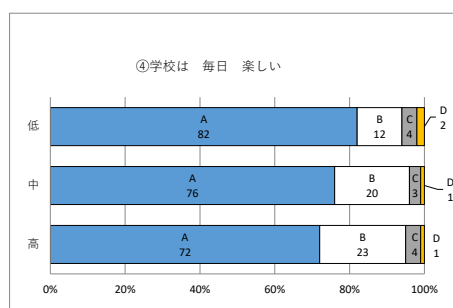
### 【人権を大切にした教育】

〈保護者〉



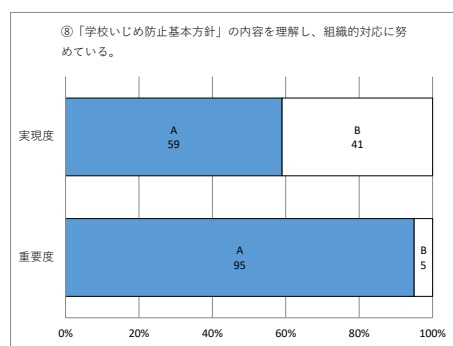
### 【楽しい学校生活】

〈児童〉

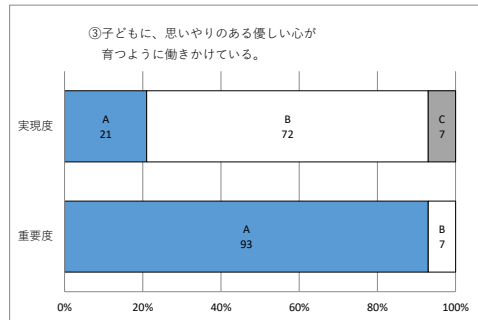


### 【いじめ防止のための取組】

〈教職員〉

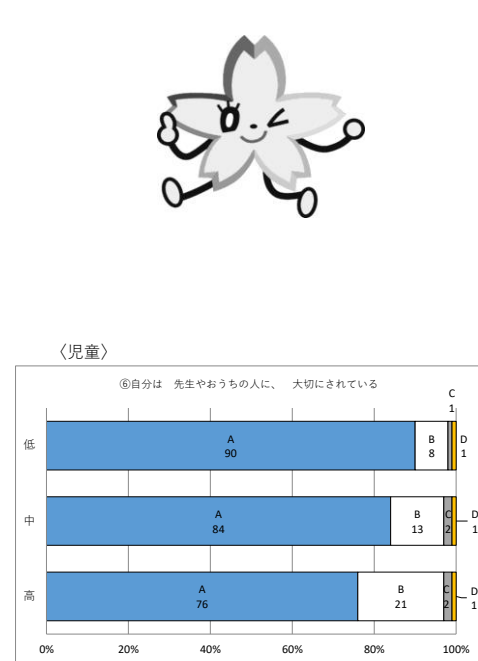


〈保護者〉



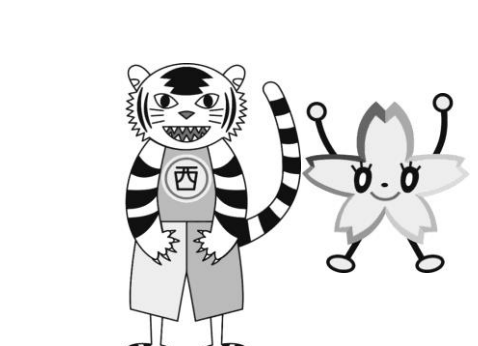
### 【楽しい学校生活】

〈児童〉

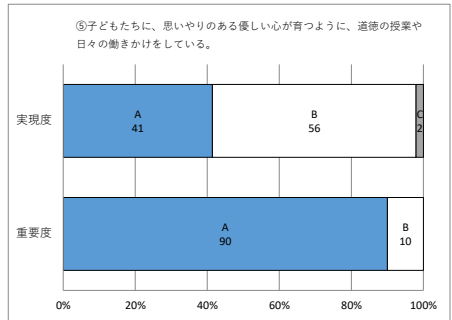


### 【思いやりのやさしい心】

〈教職員〉

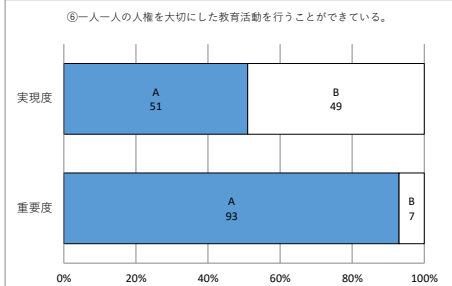


〈教職員〉



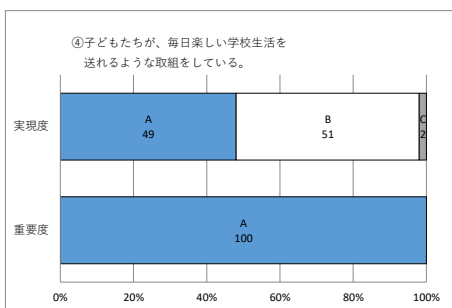
### 【楽しい学校生活】

〈教職員〉



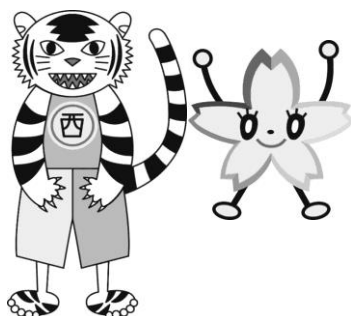
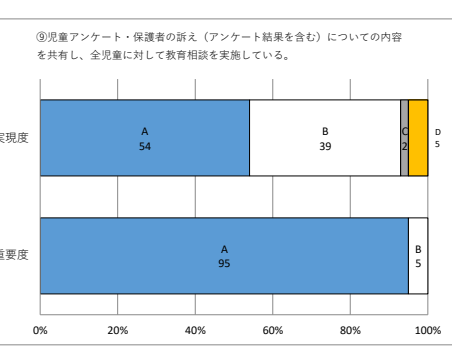
### 【思いやりのやさしい心】

〈教職員〉

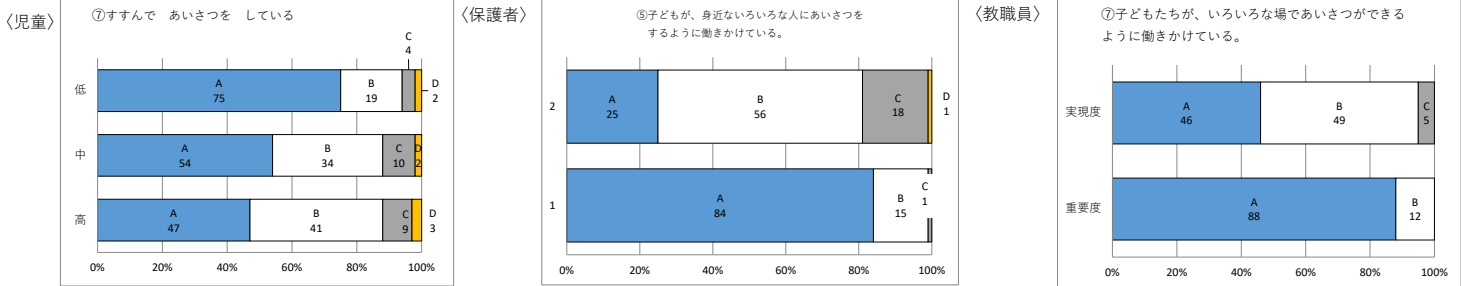


### 【思いやりのやさしい心】

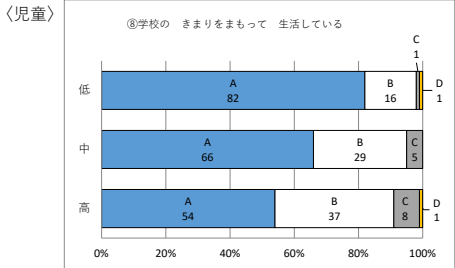
〈教職員〉



### 【あいさつをする】

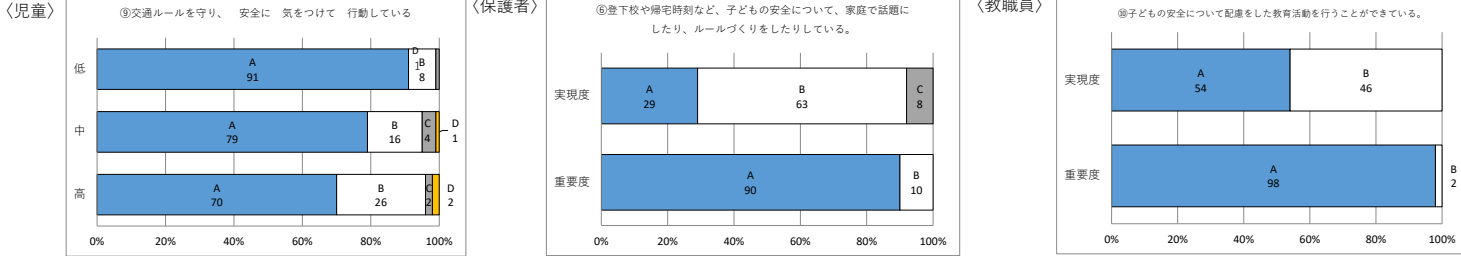


### 【規則を守る】



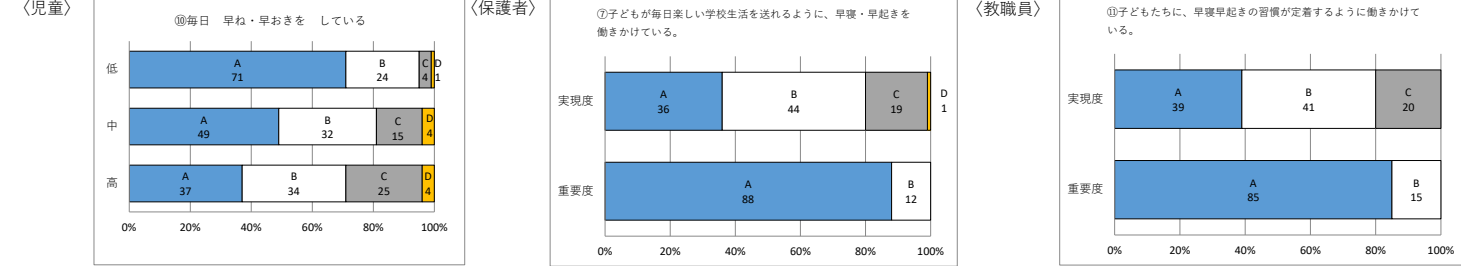
## 3 健やかな体

#### 【安全に気を付ける】

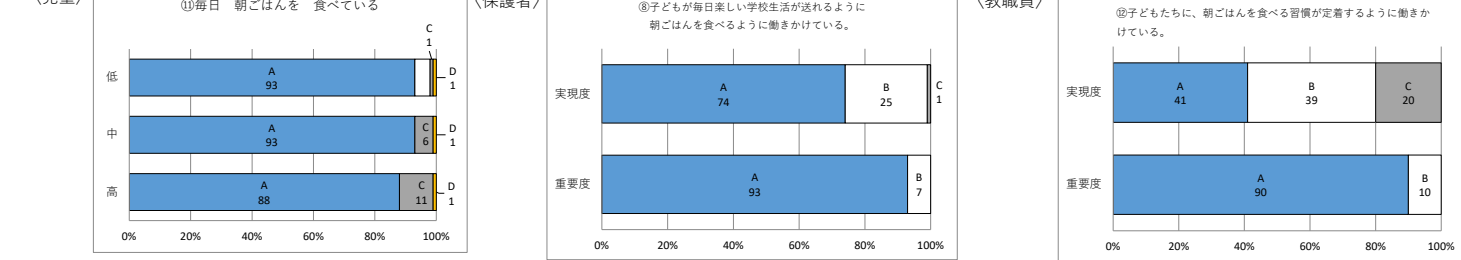


【安全に気を付ける】では、肯定的回答の割合が多くを占めています。多くの家庭で安全について話題にいただき、学校でも安全に配慮した教育活動を心がけることで、家庭と学校が連携した児童への働きかけができていることが伺えます。また、安全ボランティアの方々も、児童の登下校の様子を毎日見守ってくださっています。しかし、児童の様子を見ると、特に下校時に車や自転車が頻繁に通る道を走っていたり、友達と遊びながら帰っていたりと、危険な場面をよく見かけます。今後も引き続き、安全ボランティアの方々とも連携しながら、児童の様子を見守り、必要に応じて注意を促していきます。それをお便り等でご家庭にも発信することで、さらに連携を深めていきたいと思います。

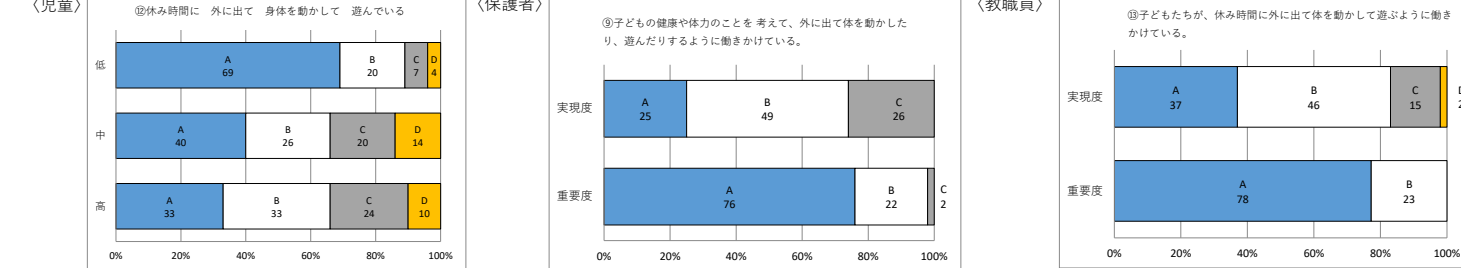
### 【早寝・早起き】



### 【朝ごはん】



### 【体を動かして遊ぶ】

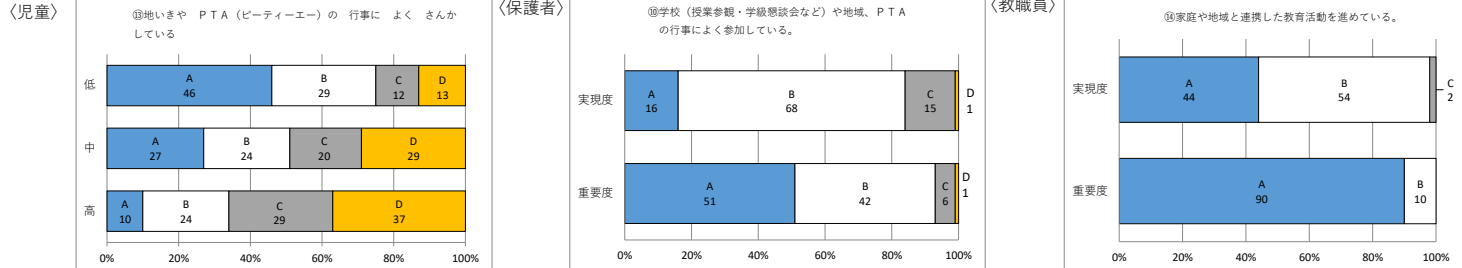


【早寝・早起き・朝ごはん】については、学年が上がるにつれ、宿題や習い事、メディア(TV、ゲーム、タブレット)などに時間を費やすことが多くなっているため、就寝・起床が遅くなる場合があります。また、「朝ごはん」についてCD回答の児童も、少なからずいることが分かります。早起きができていないため、朝食をしっかりと摂ることができていないのだと思われます。各学級での指導に加え、保健だより等で睡眠時間の確保の大切さや時間の使い方(TVを観る時間、物事の優先順位など)、体育科の保健学習や養護教諭による保健指導、栄養教諭による食の学習とも関連させながら、規則正しい生活習慣の確立、健康への意識を高めていきます。また、長期休業明けには「生活見直し週間」を設定し、すこやかチャレンジのプリントで実態把握をすることで、家庭と協力しながら、児童が生活リズムを整えるよう全教職員が意識して指導を行っています。またSNSトラブルに巻き込まれないよう、情報モラルについての学習も進めています。ご家庭でも、メディアを使う際のルールについてお話をいただき、お子様が納得してルールを守ろうとする意欲を高められると状況の改善にもつながると考えられます。

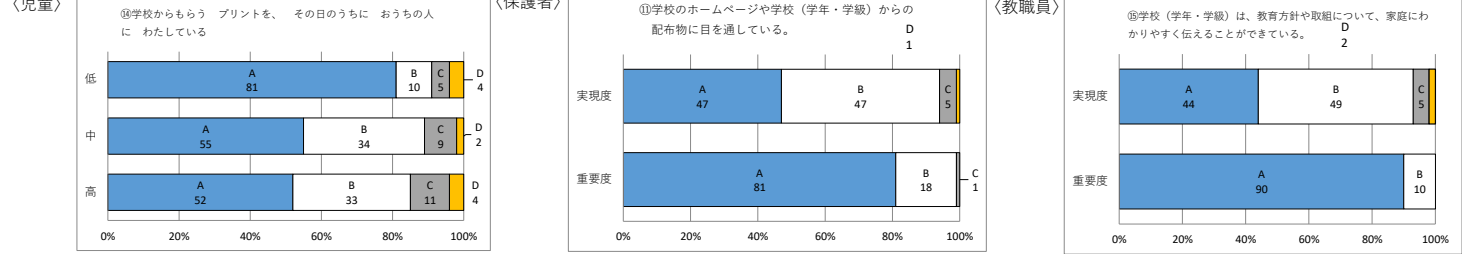
【休み時間に外に出て体を動かして遊んでいる】については、朝休みや中間休み、昼休みには運動場で多くの児童が楽しそうに遊んでいます。また、中学年や高学年になると、放課後にも学年を超えて友達と元気よく遊ぶ姿が見られます。しかし、個人差があるようです。様々な遊びに挑戦する「ジャンプアップ週間」も活用しながら、児童の体力向上をめざした取組を進めていきます。加えて、体を動かして遊ぶことが成長に及ぼすよさについても伝えています。

## 4 その他

#### 【地域・PTA行事への参加】



### 【学校・家庭・地域の連携】



【地域・PTA行事への参加】については、児童の実現度は全体的に低くなっています。保護者の結果からは、参加することは重要と考えてはいるが、時間的な余裕がないなどの理由で参加できていないという実態もうかがえます。その一方で、ボランティアとして多くの方に行事へのご協力をいただいております。今後も、「すぐーる」、「おたより」を通して行事への参加を呼びかけて参ります。【学校からもらうプリントをその日のうちにおうちの人に渡している】では、ほとんどの児童ができていますと回答しています。しかし学年が上がるにつれてCD回答が増加しています。紙で渡すものは大事なお知らせであることが多いので、配布された日に確実にご家庭に届くように、普段から持ち物を整理整頓する習慣付けを今後も行っていきます。昨年度よりすぐーる配信を利用して、配布物を減らしています。さらに「すぐーる」では、緊急のお知らせを配信することもあります。必ず通知をONに設定していただきますようお願いいたします。また、学校ホームページについては、タイムリーに更新して情報発信に努め、家庭や地域の学校教育活動への理解を得るとともに、家庭や地域と連携した取組をさらに進められるようにと考えています。

### ◆学校評価委員会の皆様のご意見

- ・子ども達の様子で、男女関係なく楽しく仲良く過ごしているのがとても良いと思う。
- ・マンションのエレベーターの中で、子ども達の方から「こんにちは」とあいさつをしてくれたのが、とてもうれしかった。
- ・あいさつを自分からできる子どもとできない子どもがいると思うが、その子どもの個性によるかもしれない。あいさつをしようと思っても知らない人には自分からあいさつをすることが、照れくさいと感じる子どももいるかもしれない。
- ・運動会をコンパクトに半日で行えたのが良かった。先生のサポートのおかげで、学年が一つにまとまっているのが伝わってきた。
- また高学年が競技や演技に使った道具をととても丁寧に扱っており、その姿が素晴らしかった。
- ・運動会は全学年そろってできることで、低学年が高学年の良さに気づくことができると思う。また勝敗があることで運動会が盛り上がった。

京都市教育委員会生涯学習部より発行されている「コミュニティ・スクール通信@京都」にも掲載されているように、子どもたちの学校生活をよりよいものにするためには、学校・家庭・地域が互いに高め合う双方向の信頼関係を構築することが何よりも大切です。そして、三者が「子どもたちのために、自分はどうのようことができるだろうか。」という意識をもって、それぞれが教育活動に参画し、子どもを育むための取組を進めていくことが大切です。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。